



互いに伝えたい感謝の心 ～修学旅行の子どもたちの姿から～

6年生は、10/19(水)～20(木)に京都・奈良・大阪方面に1泊2日で行ってきました。子どもたちは2学期に入り、実行委員会を立ち上げて、自主的に準備を進め、旅行中も右の「全員で目指す姿」を常に意識して、受け身でなく、主体的に行動することができていました。

全員で目指す姿

- ① 考動「自分で考える」
- ② 礼儀「さわやかな集団」
- ③ 学習「進んで学ぶ」
- ④ 感謝「感謝を表現できる」



二条城

「こんなに一人一人がお礼の気持ちを、気持ちよく伝えてくれて、本当に嬉しく思いました。」・・・宿泊したホテルの支配人が、2日目の朝、ホテルを出発する時に伝えてくださった言葉です。

① やってもらって当たり前？

様々なサービスがあふれている現在、過度な要求が散見される社会になってしまっていますが、子どもたちには、勝手の通らない集団生活を重ねる中で、相手や周囲の「さり気ない配慮」に気づき、感謝の念を言葉で伝えられる人になってほしいと願っています。



金閣寺

② 互いの役割への感謝とは？

出発式や班別行動、ホテルでの生活すべてに役割がありました。一人一人の活躍も立派でしたが、他の子どもたちがそれに協力し、係の子どもが十分な達成感を得られたことが何よりすばらしかったと思います。

楽しいお土産選び



③ 真剣なお土産選び

子どもたちの目が一番真剣になったのは、お土産を買う時でした。「授業中もこれくらい真剣だといいいのに…」と教員なら思っていますが、その真剣さの中に「家族を喜ばせたい！」という子どもの切なる思いが込められていると感じ、本当にほほえましいひと時でした。

ホテルでの楽しいひと時



④ 感謝し合う社会を！

修学旅行の実施に際し、前年度から始まる準備、子どもの組織作りと指導、旅行中の昼夜のない気配りなど、教員がその苦勞を口に出すことはめったにありません。しかし、今回も解散式の後にいただいた、保護者の皆様からのねぎらいの一言ほど心に染みるものではありません。

とかく自分の都合を優先し、人の責任を質し合う風潮が散見される世の中ですが、子どもたちには、自分に関わる相手を敬い、お互いの気配りや行動に感謝することのできる人に成長して行ってほしいと、心から願っています。

校長 藤井 朗



東大寺

若草山の
かわいい鹿



大阪城

